

アルゴリズムとデータ構造 2回目:10月14日

文脈自由文法, CYK法

授業資料 http://ir.cs.yamanashi.ac.jp/~ysuzuki/algorithm3/index.html

	授業の予定(中間試験まで)					
	1	10/07	スタック(後置記法で書かれた式の計算)			
P	2	10/14	チューリング機械、文脈自由文法			
	3	10/21	構文解析 CYK法			
	4	10//3	構文解析 CYK法			
	5	11/04	構文解析(チャート法), グラフ(ダイクストラ法)			
	6	11/11	構文解析(チャート法), グラフ(ダイクストラ法, DPマッチング)			
	7	11/18	グラフ(DPマッチング, A*アルゴリズム)			
	8	11/25	グラフ(A*アルゴリズム), 前半のまとめ			
	9	12/02	中間試験			
ı	10/28の代わりの補講日は後日相談					

授業の予定(中間試験以降) 10 12/09 全文検索アルゴリズム(simple search, KMP) 12/16 全文検索アルゴリズム (BM, Aho-Corasick) 11 全文検索アルゴリズム(Aho-Corasick), デー 12 01/06 タ圧縮 13 01/13 暗号(黄金虫, 踊る人形) 符号化(モールス信号, Zipfの法則, ハフマン 符号)テキスト圧縮 テキスト圧縮 (zip), 14 01/20 音声圧縮 (ADPCM, MP3, CELP), 画像圧縮(JPEG) 15 02/03 期末試験



今日のメニュー

- 文脈自由文法
- 構文木, 構文解析
- CYK法

723+ - を計算してみよう (アセンブリ言語でプログラミング)

数式(723+一)をメモリ(データ領域)に書き込まれている

- データ領域から1文字読み込む
 - 数字(アスキーコード:30H~39H)なら 数値に変換し、数値をスタックにプッシュ
 - - 一旦スタックにプッシュし、ポップする
 - スタックからポップし、数値をBレジスタに取り込む スタックからポップし、数値をBレジスタ(アキュムレータ)に取り込む

 - 演算子が十なら A + B を計算し、Aレジスタに計算結果を格納
- 演算子が一なら A B を計算し、Aレジスタに計算結果を格納 Aレジスタの内容をスタックにブッシュ
- データ領域すべてを読み終えるまで続ける

PUSH DE: 演算子をスタックへブッシュ POP DE: 演算子をスタックからポップ POP DE: 数値をスタックからポップ LD B.E: スタックトップの値をBUジスタへ POP DE: 数値をスタックからポップ LB: スタックトップの値をAUジスタへ ADD A.B: 加算(A <= A + B) JP STPUSH 後置記法 723+-の計算 、/ Z 3 + - WaT身 ORG 8000H; LD HL, DATA; 数式の先頭番地を指定 LD A, (HL) CP 00H JP Z, OWARI; 数式を全部読み込んだら終わ LOOP UDE, (HL) LD D, 0H LD A, (HL) INC HL CP 2BH JP Z, LOOPA; +なら加算処理へ CP 2DH JP Z, LOOPS; -なら滅算処理へ LD A, E SUB 30H; 数字なら数値に変換 ; ALジスタの内容をスタックヘブッシュ STPUSH: LD E, A LD D, 0H PUSH DE: 演算子をスタックへブッシュ POP DE: 演算子をスタックからボップ POP DE: 数値をスタックからボップ LD B. E: スタックトップ 個を名レジスタへ POP DE: 数値をスタックからボップ FOF DE; 数温をヘダツノからホッフ LD A, E; スタックトップの値をAレジスタへ SUB B; 滅算(A <= A - B) JP STPUSH ; OWARI: HALT ;入力データ DATA: DEFB 37H ;7 DEFB 32H ;2 LD D, OH PUSH DE ; 読み込んだ数値をスタックヘプッ JP LOOP; つぎの文字読み込みへ DEFB 33H ;3 DEFB 2BH ;+ DEFB 2DH ;-DEFB 00H ;END

簡単な計算の例 723+ -



- Z80シミュレータ for Win32
 - http://www.game3rd.com/soft/z80edit/index.htm

(スタックを含めた)メモリの様子 OS領域 8000H コード領域 コード領域 8036H 8037H 大域データ 大域データ 領域 領域 803DH ヒープ領域 ¥ スタック スタック 8FFFH PCのメモリ領域 プログラム実行時の 配置例 (Z80シミュレータ上 の)メモリ領域

1

4.5.3 オートマトンと計算理論

オートマトンの受理する言語クラス

オートマトン	受理言語型	言語クラス
チューリング機械	第0型言語	句構造言語(PSL)
線形拘束チューリング 機械	第1型言語	文脈依存言語 (CSL)
プッシュダウンオートマ トン	第2型言語	文脈自由言語(CFL)
有限オートマトン	第3型言語	正規言語(RL)

RL ⊂ CFL ⊂ CSL ⊂ PSL (チョムスキーの言語階層) (⊂は包含関係を表す)

「形式言語と有限オートマトン入門」 5 形式言語理論入門

- 5.1 形式言語理論
- 5.2 文脈自由文法
- 5.3 線形文法と正規言語
- 5.4 形式言語のクラス階層とオートマトン
- 5.5 言語処理への応用

10



形式文法Gの定義

- G=(N,T,P,S)
 - N: 非終端記号の集合
 - T: 終端記号の集合
 - P: プロダクション
 - S: 開始記号

5.2 文脈自由文法

- 文脈自由文法(CFG: Context Free Grammar)
 - 文脈自由プロダクションのみから構成される
 - 文脈自由プロダクション
 - $\alpha \rightarrow \beta$
 - t:t:t, α∈N, β∈V*
 - N: 非終端記号の集合, T: 終端記号の集合, V: NとTの直和
 - 左辺が変数1つ
- 文脈依存文法(CSG: Context Sensitive Grammar)
 - 文脈依存プロダクションを含むプロダクションから構成される
 - 文脈依存プロダクション
 - $u \alpha v \rightarrow u \beta v \quad t \rightarrow t \rightarrow t \rightarrow t$, $\alpha \in \mathbb{N}$, $u,v \in \mathbb{V}^*$, $\beta \in \mathbb{V}^+$
 - N: 非終端記号の集合, T: 終端記号の集合, V: NとTの直和
 - $u=v=\varepsilon$ のとき $(\alpha \rightarrow \beta)$ 文脈自由プロダクションとなる

1:

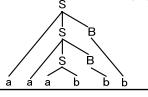
文脈自由文法の例(例題5.9)

- CFG G=(N,T,P,S)
 - N(非終端記号)={B,S}
 - T(終端記号)={a,b}
 - P (生成規則):
 - S→aSB | ab
 - B→b
 - S (始端記号): S
- ■語 aaabbb の導出過程

例題5.9の解答例



- CFG G=(N,T,P,S)
 - N={B,S}
 - T={a,b}
- P: S→aSB | ab, B→b
 - S: S
- S⇒aSB⇒aaSBB⇒aaabBB⇒aaabbB⇒aaabbb
- L(G): aⁿbⁿ
- 正規表現では表せない
- プッシュダウンオートマトンでは表現可能
- ■構文木



 \rightarrow a a a b b b 14

ここまでオートマトンと言語

■ 例題5.10 文脈依存文法の例

- CSG G=(N,T,P,S)
- N={A,B,S}
- T={a,b}
- P: $S \rightarrow aSBA \mid abA$, $AB \rightarrow BA$, $bB \rightarrow bb$, $bA \rightarrow ba$,
- S: S
- 語 aabbaa の導出過程
- L(G) はどのような言語か

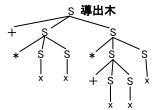
15

■ 例題5.10 aabbaa 解答

- CSG G=(N,T,P,S)
- N={A,B,S}
- T={a,b}
- P: S→aSBA | abA, AB→BA, bB→bb, bA→ba, aA→aa
- S: S
- 語 aabbaa の導出過程
- S⇒aSBA⇒aabABA⇒aabBAA⇒aabbAA
- ⇒aabbaA⇒aabbaa
- L(G) はどのような言語か
- L(G): aⁿbⁿaⁿ

例題5.11

- 問題:
- 文法 N={S},T={x,+,*},P={S→+SS|*SS|x}, S=S
- 語W= +*XX*+XXX を導出せよ
- 語wの導出木



■ 解答例

 $S \Rightarrow +SS \Rightarrow +*SSS \Rightarrow +*xSS \Rightarrow +*xxS \Rightarrow +*xx*SS \Rightarrow +*xx$ *+SSS⇒+*xx*+xxx

例題5.12①

- ■問題
- 文法 N={S},T={x,+,*},P={S→+SS|*SS|x}
- 中置記法 x+x*(x+x*x)



- 解答例
- 前置記法 +x*x+x*xx
- $S \Rightarrow +SS \Rightarrow +xS \Rightarrow +x*SS \Rightarrow +x*xS \Rightarrow +x*x+SS$ \Rightarrow + x^*x + xS \Rightarrow + x^*x + x^*SS \Rightarrow + x^*x + x^*xS \Rightarrow + x^*x + x^*x

練習問題1 例題5.12 ②

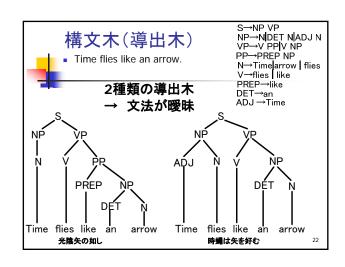
- ■問題
- 文法 N={S},T={x,+,*},P={S→+SS|*SS|x}
- 中置記法 (x*x+x*x)*(x+x)*x
- ■前置記法
- 最左導出
- ■構文木

19

▲ 文脈自由文法の曖昧性

- どのような導出を行っても同じ導出木が得られる
- ⇒文法Gは曖昧でない
- 複数の異なった導出木が構成できるような語を含む
- ⇒文法Gは曖昧である

21

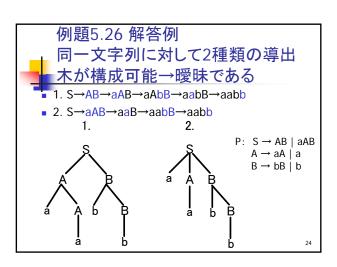


4

例題5.26

- 文法G=(N,T,P,S)において、 N={S,A,B},T={a,b},
- P: $S \rightarrow AB|aAB$, $A \rightarrow aA|a$, $B \rightarrow bB|b$
- この文法が曖昧であることを示せ

23

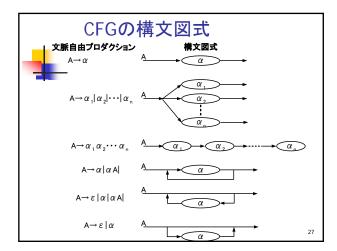


練習問題2 例題5.27

- 文法G=(N,T,P,S)において,
- N={S,A,B,C},T={a,b},
- P: S→AC|CB, A→aA|a, A→aAb|ab, B→bB|ba
- C→aC|a
- この文法が曖昧であることを, aabbaの導出木を構成 して示せ

25

練習問題2 例題5.27 解答例 同一文字列に対して2種類の導出 木が構成可能 → 曖昧である ■ 1. S→AC→aAbC→aAba→aabba ■ 2. S→CB→aCB→aCbB→aabB→aabba 1. 2. P: S→AC | CB A→aA | a, A→aAb | ab B→bB | bb C→aC | a



構文解析 文脈自由文法で生成された文から自動的に構文木を生成する.

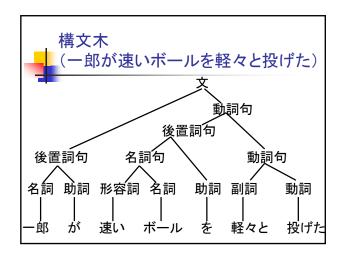
構文解析とは(Wikipediaより)

- ある文章の文法的な関係を説明すること(parse)。 計算機科学の世界では、構文解析は字句解析(lexical Analysis)とともに、おもにプログラミング言語などの形式言語の解析に使用される。また、自然言語処理に応用されることもある。
- コンパイラにおいて構文解析を行う機構を<mark>構文解析器</mark>(Parser) と呼ぶ。
- 構文解析は入力テキストを通常、木構造のデータ構造に変換し、その後の処理に適した形にする。字句解析によって入力文字列から字句を取り出し、それらを構文解析器の入力として、構文木や抽象構文木のようなデータ構造を生成する。

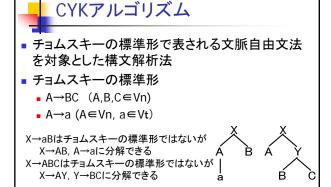
木

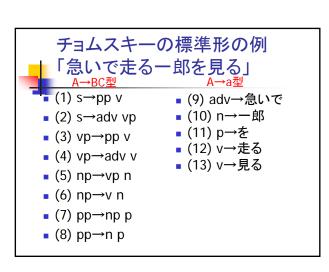
構文解析

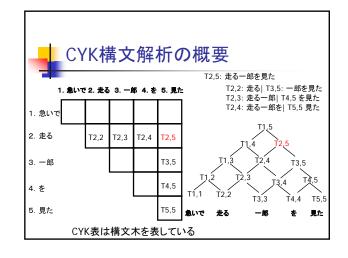
- 入力文(記号列)が与えられたとき,文法 によってその文を解析し,その構造を明ら かにする
- 代表的な構文解析アルゴリズム
 - CYK法
 - チャート法
 - アーリー法
 - LR法

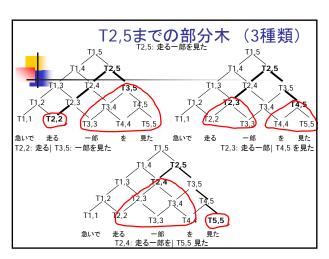














CYKアルゴリズム

1. $\stackrel{\cdot}{A} \rightarrow a$ の生成規則を用いて、主対角線上の要素を計算 for~i=1~to~N

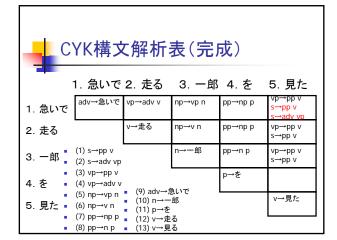
$$T_{i,j} = \{A \mid A \longrightarrow w_i\}$$

2. $A \rightarrow BC$ の生成規則を用いて、2番目以降の対角線上の要素を計算 $for \ n=1 \ to \ N-1$

for
$$i = 1$$
 to $N - n$

$$T_{i,i+n} = \bigcup_{j=1}^{n} \{ A \mid A \to BC, B \in T_{i,i+j-1}, C \in T_{i+j,i+n} \}$$

3. $S \in T_{1,N}$ であれば、 $w_1 \cdots w_N$ は開始記号Sから導出可能





今日のまとめ

- 文脈自由文法
- 構文木, 構文解析
- CYK法